

IV や っ ら ゃ ば 閑 話

「選果はブランド」

ある果物専門店の代表から話を伺う機会がありました。

「果物を選ぶ上で、最も重要視しているところは何か？」と質問をしたところ、次の答えが返ってきました。

『何よりもまず、選果の良い産地の品物を選ぶようにしている。』

選果の良い産地例として、JAながさき西海が挙げられました。

選果基準を定めて、うんしゅうみかんのJA独自ブランド「味っ子」「味まる」として出荷している他、長崎県下統一ブランド「出島の華」としても出荷しているとのこと。

どのブランドも品種は「させぼ温州」で、ブランド別に園地が指定され、ブランドごとに光センサーを2回通して形状、糖度、酸度で選果し、各々の基準をクリアしたもののみが出荷されるとのことでした。

代表曰く、

『選果技術の良い産地の品物であれば、箱を見るだけで、記載された情報からブランド名、一定の品質（形状、糖度、酸度）であることが分かる。』

とのこと。また、

『果物は、糖度や酸度等、品質保証されていることが「ブランド」そのもの。』

とも話していました。

千葉県は梨の産地であることから、JAえちご中越の事例も挙げられました。

管内で生産される桃、ぶどう、梨、洋梨の共通ブランドとして、「天果糖逸（てんかとういつ）」が定められ、特に梨は、品種に関わらず、全量を光センサーで選果し、糖度11度以上を「天果糖逸」ブランドで出荷しているとのこと。

切花においても、卸売会社のセリ人から、『箱を開けなくても品質が分かる（＝信頼がおける）産地が一番！』との話を伺っています。

出荷規格のとおりを選果・選別され、出荷されていることが一つの保証（＝ブランド）となることは、果物のみならず、野菜、花きにも言えることです。近年では、AIを活用した選果機も登場しており、時代はどんどん進んでいます。

（チーバくんの鼻の先）